Hi! We're Y*S Corsaire!

音楽の日～The music day

Y*S Corsaire Showko

1 こんにちは。コルセイルです♪

わたしたちは、埼玉を中心に関東一円で活動する2人組音楽ユニットです。ふたりぼっちの編成ながら、2台のピアノ+ダブルボーカルを駆使し、交響楽やオペラ、金子みすゞの童謡、アニソンに最新のK－POPまで、幅広いレパートリーで、幅広い層のお客様の支持を得ています。

姉妹デュオならば、一般的には上品で美しくあってほしいものですが、わたしたちコルセイルは、音楽会のたびにフルサイズのエレピ2台と付属品、マイクやアンプ、スタンドにスピーカーまで、自前のPA機材一式を自分たちで担ぎだし、たとえそこが都心のホールであろうと、閑静な邸宅の客間であろうと、ジプシーの旅一座のごとく、ワゴンの荷台へギュウギュウ詰めに、お声がけいただいた、ステージからステージへと移りゆくのですから、その実態は、すこし風変わりかもしれません。

2 コルセイルの音づくり

演奏はもちろん、日常的に作曲・編曲をし、ダイナミックで幻想的な独自の世界観を作りたいと目論むわたしたちは、スピーカーやケーブルを通して聴衆に音楽を届ける演出を、早い段階で導入しました。「つまり鍛えられたベルカントじゃなく、マイク頼みってことでしょ？」いやいや！そう早計に結論づける事なかれ！PA=Public Address 、つまり音を細部まで凹凸なく公衆に伝達する、という直訳に立ち返れば、「たったふたりでも、縦横無尽に2台のピアノを奏でながら、同時に歌いながら、多様なコンテンツを、効果音プラスαまで入れて、理想のステージに近づける」ためには、音量やハーモニーのバランス、楽曲ごと異なる質感まで細かく調整するための音響機材は、必要不可欠でした。

そして、そんな異端児のわたしたちだからこそ、コロナ禍エンタメ業界が、作品の発表はおろか練習の場さえ失われていく状況下でも、絶え間なく出演オファーを頂き、ささやかながら確かな足跡を、残していくことが出来たのだと、痛切に感じています。

3 幸手市立八代小学校芸術鑑賞会

そのなかでも今回は、決して忘れられない、とある小学校でのコロナ禍での音楽鑑賞会について、お話したいと思います。ご存知のように、合唱・合奏は、三密の天敵かのような扱いを受け、まして公共教育の名のもと、時に政治の犠牲にさえなってしまう子どもたちは、いまだに入学、卒業式といった晴れの席ですら、大人数で合唱することが叶わないのが現状です。

そんななか、「子どもたちの生涯にわたって記憶に残り続ける、宝物のような生きた体験をしてもらいたい」という想いを胸に、幸手市立八代小学校は、対面集会形式で、生演奏での音楽鑑賞会を断行し、最後に全校そろって、校歌を合唱することが出来ました。しかし開催予定日は、オミクロン株の感染拡大により、埼玉県を含む関東一円に、蔓延防止等措置が取られた、2022年1月21日。まさに危機的な状況でした。

ではなぜ、学校教育現場でタブーとされる、集会形式の生演奏（ライブ）音楽鑑賞会を実施し、かつ全校生徒がそろって、校歌合唱を行うことができたのでしょう？消毒の徹底や出演者のPCR検査など、一般的な感染対策は前提にあるとして、特に生演奏実施成功の鍵となったものについて、少し考察してみましょう。

4 成功への三つのキー

❶ PA機材による三密回避の環境設定

1つめのキーは、ズバリ！PA機器の使用です。音響機材は、わたしたちの目指す、ファンタジックな音楽空間を作り出してくれるだけでなく、三密の発生リスクを徹底的に低減してくれました。

ふつう芸術鑑賞会は、体育館などに全校生徒を集め、みんなで一つの舞台を鑑賞するのですが、八代小では、密集をさけるため、低・中・高学年のグループに分けて一回あたりの参加人数を絞ったので、学年毎に異なるプログラムを、3ステージ行うことになりました。事実上トリプルヘッダーであり、演奏者としては、内容の異なるコンサートを同日に3回おこなうようなもので、未知数の困難さが予想されましたが、出来る限り生演奏そして対面での開催を目指していたため、必須条件でした。

会場となったのは、真冬の寒い体育館ではなく、エアコンがあり換気も容易な3階奥の音楽室。横長で段差もある広めの特別教室でしたが、間口の開いた二箇所にスピーカーを設置すれば、音は全体にまわり、観客の座る向きや距離による、響きの不均衡は生じません。だから、出演者と鑑賞者、その其々も、互いに密接することなく、前後左右に充分なスペースを確保して客席をつくれます。さらに密閉を避けるため、窓や扉の一部をずっと開放していましたが、静けさを表現するようなシーンでも、PAの威力でまんべんなく細部まで聴き取れるので、結果として子どもたちはストレスなく、演奏に集中してくれたようです。

❷ 学校応援団コーディネーター

2つ目のキーは、主催者（依頼側）である学校と、出演者（請負側）であるわたしたちの間に立ってくれた、コーディネーターの存在です。同じ目的をもつ者同士でも、立場の違いによって、視点や価値観、危機感や企画への温度差などが生じ、いつの間にかお互いの道が離れてしまう場合がありますが（特に、音楽や絵画をはじめ、本来は人間を豊かにするはずの芸術活動は、衣食住や健康管理より蔑ろにされがちです）、そもそも音楽鑑賞会実施の発起人のひとりであった女性コーディネーターは、あくまでも主役である子供たちを主眼に、安全性を説く学校の意見にも、私たちが目指すステージ構成の重要性にも耳を傾け、時に教育委員会など行政にも根回しし、感染状況に反応しながら、進行管理してくれました。

松田コーディネーター、yoshie、showko

その結果、熱意にあふれた主幹教諭を筆頭に、校長先生や他の学校関係者、市の教育長までもが、鑑賞会の企画通りの実施に向け、強力に支持してくれたため、中止、延期の危機を乗り越え、本番を迎えることができました。コーディネーターの、多方面への配慮と愛情なくして、あの日を円滑に終えることは難しかったと、今でも心から感謝しています。

❸ 企画の魅力と、実現にむけた一貫性

本来の形式での完遂に導いた3つ目の大きなキー。さいごに自画絶賛するようで面映いのですが、それは感染対策と共存しながら生演奏を実施するために練られた、そもそもの企画の魅力と工夫、また、理想の形で実施する意味を大切する、周囲を含めた一貫した態度にあったと思っています。

わたしたちの企画の根幹にあったのは、

- 子どもたちが、安心できる環境で開催すること
- 子どもたちに、興味を持ち能動的なマインドセットで、参加してもらうこと
- みんなが同じ時間・空間を共有し、相互に共鳴しあいながら、生きた音楽を体験してもらうこと
- 知らない世界に足を踏み入れたような、心ときめく特別な時空間に、連れて行ってあげること

そのため、わたしたちは最後まで、録画でも配信でもなく、ライブのグルーブ、生きた音楽の体験にこだわっていました。ZOOMや録画配信という、安全だけのために危険をおかさない選択を、簡単にしたくはなかった。なぜなら、一度でも素晴らしい演奏会になんらかの形で参加した誰もが気づいているように、そもそも音楽は生きているものだからです。

本当の音楽的体験とは、空気、温度や湿度、光彩も暗闇もそのままに、演者と観客と、存在する全てのものの間を音の粒子が往き交いながら、空間を共有するものたちだけが醸し出すことのできる相互作用、不可逆的な一瞬の連続です。だからこそ、そこで受け取るものは、たとえ短い時間であっても、尊い経験や原風景となり、生涯を通じて、子どもたちの胸の奥底、のみならず演奏者であるわたしたちの感性をも揺さぶりながら、創造と想像の翼のタネをまくからです。

わたしたちは、コーディネーターを通して、あるいは学校関係者に直接、そして観客となる子どもたち自身に向けても、企画提案の段階から、丁寧に解説したり、資料やアンケートを配るなど、いくつもの仕掛けと工夫をこらして、生演奏の音楽会を心から体験するため、聴衆としての心構えを促すことにも心を配りました。

5 The Music Day～音楽の日

明けて1月になると、オミクロンの状況は悪化の一途をたどり、近隣の学校では次々と、予定されていた課外活動等が中止・延期となっていきます。

八代小でも、オンライン配信という案が浮上しかけたこともありましたが、わたし

鑑賞会当日　朝の校庭の風

たちは願わくば、みんなで音楽空間を作る生演奏での実施が、芸術鑑賞会を本当に意義のあるものにするために望ましいと伝え、健康チェックやPCR検査をしながら、粛々と準備を続けました。

そして迎えた1月21日。よく晴れた冬の金曜日は、学校のはからいで、午前中をまるまるコルセイルの音楽鑑賞会のために、自由に使えることになっていました。前述のコーディネーターの尽力もあり、様々な小物やデイスプレイ、電飾などで飾られた会場からは、朝から、いつもとはちがうイベントのスタートを予感させる、呼び込みのBGMが流れています。廊下にもぶら下げられた、音楽会の看板に誘われるように、やってきた子ども達が扉をひくと、もうそこはいつもの音楽室ではありません。キラキラわくわくの、不思議な世界！

プログラムのメインには、学年ごとに異なる、金子みすゞさんの童謡詩を用意しました。コルセイルが作曲した音楽を軸に、海や森へといざなう効果音で教室を満たし、主人公である子どもたちの朗読を織り混ぜながら、詩への理解と想像力を深めるかたちで進行します。

後半は、楽しいアニメや人気ポップスなどを演奏。さいごに歌詞を解釈しながら校歌を歌って、学年ごとのプログラムは、楽しく終了したかに見えました。

でも実はここからが、サプライズ。圧巻のフィナーレへ！既に鑑賞会を終えたと思い、それぞれの教室に戻った低・中学年の子どもたちも、DJに扮した校長先生の「もう一度みんなで音楽室へ集合！」という校内アナウンスで、ふたたび、ぞくぞくと、3階の音楽室に集まってきます。互いにソーシャルディスタンスを保っているため、点々と、空に散らばる星のように、音楽室に引き寄せられるのです。

ある子は廊下で、あるいは階段で、そして教室で。校舎の3階のそれぞれの場所に分散して集まり、まだ何も知らない子どもたち…。その刹那、校舎中に美しい管弦楽の前奏が鳴り響きました！みんなに歌詞の大切さを伝え、そのうえでコルセイルが、一大叙事詩のような交響楽にリメイクした校歌。大きな2台のスピーカーから、学校中に溢れ出す、その特別な伴奏にのせて、コロナ以降はじめて、自分

たちの校歌を子ども達は全校で大合唱したのです。

「音楽の日～The music day」と銘打った芸術鑑賞会は、学校の全面的な協力のもと、その題名のとおり八代小を音楽一色に染めました。

6 勇者たちの行進

…ここまで、声高に自分たちの功績を挙げ連ねてみましたが、とはいえ、主催者や支援者、演奏者の努力だけで全てがうまくいく筈もありません。八代小が全校生徒74名の小規模な学校であったこと、幸手が埼玉でも比較的のどかな地方都市であったことなど、偶々に助けられたことが多々あったと思います。

そして、実はニッポン的タテ社会においてコロナ変異株よりも怖いのは、「見えざる敵」なのかもしれません。感染拡大の脅威は、その予感だけで人々を、臆病にも卑怯にもしてしまう。

対策や予防をうたい、転ばぬ先の杖を持っても、不安や怠惰に飲み込まれそうになる心の弱さこそが、「一瞬のきらめきである、音楽の時空間を、ライブで共鳴しあう」という、大切な経験の機会を、とくに声なき小さな子どもたちから、奪ってしまってはいないでしょうか？

それを思うと、「八代小学校～The Music Day～」はやはり奇跡の一日でした。たくさんの勇敢な大人たちが、知恵と力を寄せ合い、全力で子どもたちに託した、小さな夢のタネ。あの日、心を寄せ合い、声を重ねた子どもたちの記憶のなかで、未来永劫、ずっと輝き続けてくれますように！！

地元紙に掲載された記事

（3）　2022年（令和4年）2月18日

幸手

アレンジ校歌に感動

八代小 地元出身デュオが演奏

幸手市立八代小学校（冨澤敏夫校長）は「The Music Day音楽の日」と題した芸術鑑賞会を1月21日に行い、学年ごとに分かれて同市出身のツインピアノ&ボーカルデュオ「Y・Sコルセイル」の演奏を鑑賞しました。

デュオは義姉妹の佳枝さんと祥子さんで結成。童謡詩人の金子みすゞの詩に曲を付けたり、闘病中の人々の前で演奏したりなど活動しています。

会場の音楽室には2台のシンセサイザーが置かれ、金子の詩にちなんで折り紙で作ったディスプレーに、児童たちが目を輝かせました。

2人は「心に残るよう、八代小のために組んだプログラム」と話した後、アニメ主題歌やアイルランド人歌手の曲などを様々な音色で演奏。1、2年生には金子の「どんぐり」「月とどろぼう」の詩を基に作った曲を披露しました。

祥子さんは金子の詩を紹介し、「無理に詩を作ろうと思わなくても、思いついたことを書き留めておくと、後で読み返してそのときの思いを思い出せる」と話しました。

また、児童のリクエストで、アレンジを加えた校歌を演奏。自然に手拍子が起こり和やかな雰囲気になりました。

1年の平間朝陽さんは「色々な歌の音楽を聴いてうれしく思いました」と話し、新井詩織さんは「『アナと雪の女王』の歌が感動的でした。また来てほしいです」と喜びました。

2年生の北山結也君は「すごい演奏でした」と感動し、増田芽郁さんは「とても楽しい芸術鑑賞会でした。いつもの校歌より楽しかったし、感動しました」と語りました。

Y・Sコルセイルの校歌に合わせ手拍子する児童

子ども達からの感想のお手紙つづり

…そして、わたしたちコルセイルは今日もまた、のトランクにパンパンの大荷物を詰め、旅に出ます。
またいつかどこかで誰かを、一度きりの不思議な音楽空間に、連れていってあげられますように…

2022/06/09

Y*S Corsaire コルセイル YouTubeチャンネル

八代小学校校歌卒業記念オーケストラ伴奏動画
https://youtu.be/yq4oUPCaNiM

金子みすゞ「大漁」
https://youtu.be/XbGbToAELC0

Y*S Corsaire コルセイル Official website:
https://www.yscorsaire.com

Mail: yscorsairejp@gmail.com